

窓から穴道湖を臨み、広がる青空。

緑に恵まれた玉湯の丘で期待に応える病院を目指します。

No.43
2016年 春号

JCHO玉造病院広報誌

たまつくり

Now ナウ



70年を迎えて記念誌を発行しました

昭和20年(1945)に玉造整形外科診療所として開所いたしました当院も、平成27年(2015)をもって70年を迎えることとなりました。これから先も、地元の皆さまに愛される病院として、地域医療に邁進してまいりたいと思います。

左より50年史・先日発行された70年史・60年史

CONTENTS

新院長挨拶	2・3
最新医療レポート	4・5
整形外科外来“もうすぐシート”?! を設置しました	5
コツコツ通信／今月のレシピ	6
委員会紹介／インターンシップ体験記	7
INFORMATION	8

人工関節手術件数 9,395件 (3月31日現在)

理 念

私たちは心温まる医療を実践します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った安心・安全な医療を行います。
2. 医療人として責任を自覚し、高度で良質な医療を行います。
3. 整形外科とリハビリテーションの基幹病院として、患者さんの身体機能の回復・維持、生活の質の改善を支援します。
4. 地域の医療・介護・福祉機関と連携し、地域に根ざした医療の充実に努めます。
5. 人材育成を進め、働きがいのある病院づくりに努めます。



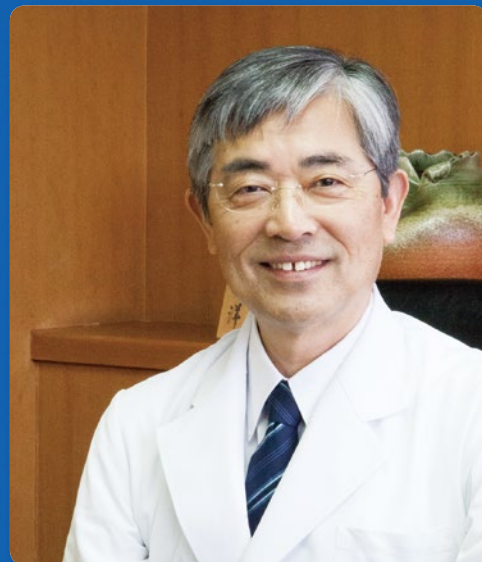
Japan Community Health care Organization JCHO / ジェイコー
独立行政法人地域医療機能推進機構

玉造病院

新院長に 就任して

独立行政法人地域医療機能推進機構
玉造病院 院長

池 田 登



理 念

私たちは心温まる医療を実践します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った安心・安全な医療を行います。
2. 医療人として責任を自覚し、高度で良質な医療を行います。
3. 整形外科とリハビリテーションの基幹病院として、患者さんの身体機能の回復・維持、生活の質の改善を支援します。
4. 地域の医療・介護・福祉機関と連携し、地域に根ざした医療の充実に努めます。
5. 人材育成を進め、働きがいのある病院づくりに努めます。

本年4月1日付けで病院長を拝命いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

私が玉造厚生年金病院に赴任してまいりましたのは平成11年9月1日、今年で18年目になります。高校卒業までは岡山県南西部、大学は京都、これまで在籍した病院はすべて関西だったので、赴任当初は山陰地方特有の雲の多い重い空と湿気を帯びた気候、お年寄りの話す出雲弁になかなかなじめなかったことを思い出します。ただ18年という歳月は生まれ育った岡山の在住期間より長くなりつつあり、今ではすっかり松江の街に溶け込んでいます。

こちらに赴任させて頂く前、玉造厚生年金病院は京大関連病院のなかでもスタッフ・設備・備品の充実したもっとも働きやすい病院のひとつであるという評判を聞いてまいりましたが、働き始めてその評判に違わず、私はこの18年間、一臨床医として大きな苦勞もなく仕事に打ち込んでくることができました。

この間当院を取り巻く医療状況はめまぐるしく変化してきました。小泉政権時代の診療報酬の度重なるマイナス改定による収益減収、2004年に始まった臨床研修制度による医師の都市圏集中化現象による医師不足、7対1入院基本料による中小病院の看護師不足、さらに年金財政の逼迫による厚生年金病院存続の危機等々、時代の医療制度変革の波に直面してまいりました。

しかし当院はこの時代の流れに適宜対応してきたことで、常に安定した病院運営が維持されてまいりました。これにはふたつの要因があります。ひとつは上尾前々院長の言われる病院の経営に関しては百貨店より専門店という整形外科に特化することによるダウンサイジングと高機能化であり、もうひとつは松江圏域における病病、病診連携を含めた地域のみなさまのご支援のお

かげだと思っております。

当院は、昭和20年11月、戦時職場で障害を受けた人たちの社会復帰を支援するという開設理念のもと“厚生団玉造整形外科療養所”としてスタートしました。当時、中国四国地方では整形外科を名乗る施設はなく、以後現在に至るまで山陰のみならずこの地域の整形外科診療の水準向上に貢献してまいりました。一時期懸念された厚生年金病院存続に関しては多くの皆様の署名活動等の援助も賜りまして、存続が決定し、診療内容を変えることなく、独立行政法人地域医療機能推進機構に平成26年に経営移管され、再出発し、昨年無事開設70周年を迎えることができました。

今回、病院長就任にあたり理念と基本方針を改訂いたしました。

理念はできる限りシンプルで覚えやすいものとなりました。

医療は医療者と患者さんとの信頼関係が何よりも重要です。医療者側から見てどんな完璧な治療を提供しても、患者さんと心が通っていなければ、納得できる結果は得られません。医療者と患者がともに疾病に立ち向かいともに納得できる医療をめざしてゆきたいと考えております。

私たち地域医療機能推進機構（JCHO）玉造病院の最優先の役割は患者さんに信頼される高水準の医療を実践してゆくことです。そのためには病院で働く人がやりがいを持って仕事をするのできる環境を作ることもまた重要です。

これまで長きにわたり諸先輩たちが築いてきた伝統を守りつつ、時代に即した病院運営を心掛け、皆さまに信頼され、働く人にやさしい病院作りに励んでゆきたいと考えております。なにとぞご支援、ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

地域包括ケア病棟



リハビリテーション科
医師

辰巳 春環

在宅復帰に向けた リハビリテーション

平成26年4月医療保険の改正で提唱された地域包括ケア病棟を平成26年9月に当院でも開設しました。この病棟では回復期に加え維持期のリハビリテーションも行える病棟です。

リハビリテーションは時期により急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、維持期リハビリテーションと分けられています。

たとえば脳卒中を発症したとします。まず地域の急性期総合病院に移送され入院。手術・血栓溶解療法などの急性期治療を受け麻痺などの改善や救命治療を中心に行われ、全身状態が安定するように治療されます。またそれとともに拘縮予防の関節可動域訓練だけでなく早期離床を目指すための座位立位訓練、誤嚥性肺炎を予防するための摂食嚥下訓練などが急性期病棟で行われます。これが急性期リハビリテーションです。麻痺などの症状が軽く改善治癒してそのまま自宅へ退院できる患者様もおられますが病状が安定しても麻痺などが残り日常の生活が自立せず、そのままでは自宅での生活が困難を強いられる患者様もおられます。このような患者様は自宅退院に向け回復期リハビリテーション病棟に転院し、訓練室だけの訓練でなく、整容・更衣・入浴など自宅で生活を想定した病棟生活での訓練を中心にされます。そして退院前家庭訪問・外出訓練などで退院に向けた訓練・環境整備をしてスムーズに自宅退院へと進められます。これが回復期リハビリテーションです。退院後は維持期となり介護保険で訪問リハビリテーション・デイケア・短時間デイサービスといった在宅で受けるのが維持期リハビリ

病院看護師やリハビリスタッフも含めた入院時のカンファレンス



テーションでした。

しかし退院後、重症の患者ではリハビリテーションがなかなかうまく進まず臥床がちとなり、退院時の歩行能力・日常動作能力が維持向上できず低下する患者様もおられます。また回復期は発症後約半年前後で、その後に出現・増悪することのある痙性・痙縮（筋肉・関節の硬さの増悪）などの症状で歩行が困難になったり歩く姿が悪くなったり、またそのための疼痛などで動きが悪くなることもあります。回復期リハビリテーション病棟に入院するには発症しその後2か月以内の脳血管疾患・頭部外傷・頸髄損傷・下肢骨折など疾患・時期が限定されています。退院したのち体調悪化などで日常生活ができなくなった状態では入院できません。

そこで高齢や重度障害のため少しの体調不良で日常生活動作もすぐに低下してしまう患者様に対して、維持期でも短期集中的にリハビリテーション訓練を行って再度自宅・地域社会に戻れるようにする医療として、地域包括ケア病棟が設けられました。退院されて在宅で生活されている患者様が、脳卒中などの再発はしていないが状態が悪くなったときに、病名などに関係なくリハビリテーション訓練のできる病棟です。ただ期間は2か月間と限定はされています。

対象は身体障害や、何とか自宅生活できていたがちょっとした病気で臥床がちになりその後自宅での生活が困難となった高齢の患者様や、障害が重度で回復期病棟退院後の在宅リハビリテーションが進まず臥床がちとなった患者様などで、リハビリテーションを少し受けたいと思われている患者様です。

入院後は1時間ほどのリハビリテーション訓練を毎日受けるとともにリハビリテーションスタッフや担当ケアマネジャーとも連絡を取り合って、患者様の状態にあった今後の方向性を検討していきます。そして退院前にはケアマネジャーなど在宅スタッフとともにカンファレンスをして、スムーズに自宅への退院を行えるようにします。

現在松江市には地域包括ケア病棟は当院にしかありませんが、今後さらに増えていき高齢や重症の患者様がより長く地域で生活を続けるようになることを期待しております。

整形外科外来 “もうすぐシート”?! を 設置しました

西3階病棟 看護師長
森田 順子



以前は診察時間が近くなると“中待ち合い室”というところがあり、前の患者様の診察が終わるとすぐに診察室に案内されていました。しかし、診察室に近すぎるがゆえに、診察内容がわかることもあり個人情報の観点から適切ではない、ということになりました。

整形外科の受付をされると、中央ホールでお待ちいただいておりますが、患者様が多いときには診察室に近い場所の椅子が空いてないことも少なくありません。また、診察室よりも遠くで待たなくてはいけない、「まだ、呼ばれないだろう。」と用事をされておりホールにおられない、呼び出しの音が聞きとりにくく診察室への案内に気づかない、ホール以外の場所におられる場合には職員が患者様を探すこともあります。これらは診療の妨げとなり、結果、患者様の待ち時間が長くなるということにつながります。

そこで、このたび整形外科診察室と中央ホール待ち合いスペースの間に、通称“もうすぐシート”?! を設けました。まだ、試験運用中で専用の椅子の数も少ないですが、診察が近づいて来た患者様に優先的にこの場所にご案内させていただき、スムーズな診療をすることで待ち時間の短縮を目指します。



コツコツ通信

骨の新陳代謝 一骨は生まれ変わっています

放射線室 診療放射線技師（骨粗鬆症マネージャー） 須田 学

【骨吸収】 古い骨は、骨を壊す細胞（破骨細胞）によって壊されます。

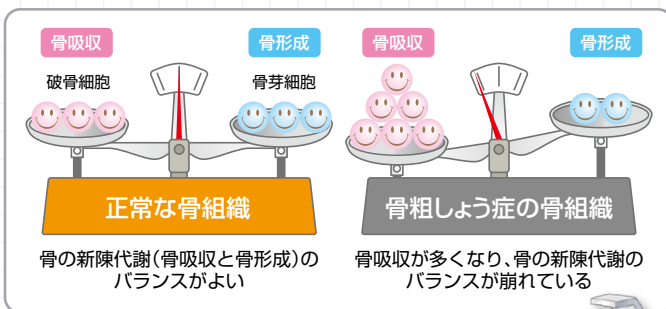
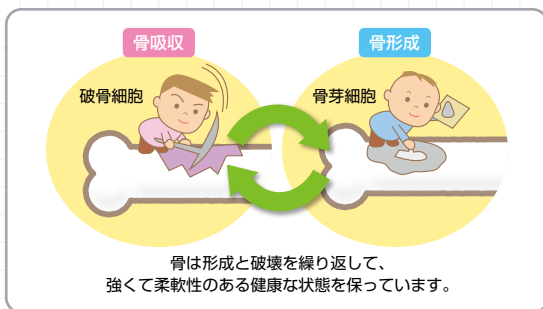
【骨形成】 次に骨を作る細胞（骨芽細胞）によって新しい骨に作り替えられています。

この「骨吸収」と「骨形成」が常に繰り返されることで、強さと柔軟性を保った健康な骨を維持することができるのです。

どうして骨がスカスカになってしまう骨粗しょう症になるの？

骨の新陳代謝のバランスが崩れてしまうのが原因です！

女性ホルモンのエストロゲンには、「骨吸収」を抑える働きがあります。しかし閉経後はエストロゲンが急激に低下するため、「骨形成」よりも「骨吸収」が多くなることにより骨がもろく、骨折しやすくなる ⇒「骨粗しょう症」になりやすいのです。



検査を受けて、今現在の「骨」の状態をチェックしてみませんか？ 検査を希望される方は、お気軽に主治医、看護師にご相談下さい



今月の

Recipe of this month

当院の管理栄養士が健康や美容などに効果的なレシピをご紹介します

レシピ

管理栄養士 周藤 あゆみ

春野菜のキッシュ

今回は、春野菜を使ったキッシュをご紹介します。

春キャベツにはビタミンC、ビタミンU、カリウム、カルシウム、食物繊維等の成分が含まれています。これらは肝臓の解毒作用を助けたり、免疫力を高めたり、美容にも効果があると言われています。

日頃から忙しい方、頑張りすぎている方は季節の変わり目に疲れが出て体調を崩す事があるのでないでしょうか？そんな時程、春野菜をしっかり食べて体調管理を!!

春はだんだん暖かくなり、家の外には桜やチューリップ、牡丹等の綺麗な花が咲く季節です。焼きあがったキッシュを持って出掛けてみてはいかがでしょうか？

◎レシピ(4人分)

260Kcal(1人当たり 1/4切れ)

- 材 料 (キッシュ生地 20cmタルト型)
 【生地】 ※冷凍のパイシートでも代用できます。
 ◎薄力粉 100g
 ◎牛乳 40cc
 ◎オリーブ油 25g
 ◎塩 2つまみ

- 【卵液】
 ◎卵 1個
 ◎牛乳 75cc
 ◎ピザ用チーズ 50g
 ◎塩、こしょう 適宜

【具】

- ◎ツナ(ノンオイル) 50g
 ◎キャベツ 60g
 ◎グリーンアスパラ 40g
 ◎玉ねぎ 20g
 ◎パプリカ(赤) 20g
 ◎プチトマト 4個
 ◎オリーブ油またはバター 適宜

●作り方

- ① ボウルにふるいにかけて薄力粉・牛乳・オリーブ油・塩を入れ、円を描くように混ぜ合わせていく。
- ② 生地がポロポロになったら、ひとまとめにする。
- ③ ②をラップで包み、冷蔵庫で30分寝かせる。
- ④ 生地を綿棒で伸ばし、タルト型にはめる。フォークの先や専用のピケローラーで生地の下や側面を刺して空気穴をあける。
- ⑤ 180度のオーブンで15～20分焼く。※温度と時間は機種によって異なるので、調節して下さい。
- ⑥ キャベツ・玉ねぎ・パプリカを1cm角に切る。アスパラは食べやすい長さに切る。
- ⑦ フライパンにオリーブ油、またはバターを適量熱し、キャベツ・玉ねぎ・パプリカ・アスパラを炒め、塩・コショウで下味をつける。(ツナが入るので、下味は薄めに…)
- ⑧ ⑦をボウルに移しツナを入れ、卵・牛乳・ピザ用チーズ、塩、こしょうを混ぜたものを投入する。
- ⑨ 先につくっておいた生地に⑧を流し込む。
- ⑩ 180度のオーブンで25～30分焼けば出来上がり。

※オーブンの機種によって違うので、焼き具合を確かめながら行って下さい。少し焼き上がりがゆるめでも冷めてきたら固まってきます。



《委員会紹介》

病院内の委員会とは？

玉造病院では、さまざまな職種のスタッフが参加して、診療をはじめ業務全般の向上めざして、多くの委員会が活動しています。

FILE No.02

褥瘡対策委員会



褥瘡対策委員会副委員長
岡田 治子

褥瘡対策委員会は、石部委員長（整形外科部長・脊椎外科センター長）を筆頭に14名の委員で構成しています。

委員会は、院内の褥瘡対策としての役割を担い、患者様の褥瘡発生リスク評価や褥瘡発生予防に必要なケアを提供できるように毎月検討し実施しています。

各部署で入院患者様の褥瘡の予防や早期発見に努めてもらい、異常発生時やリスクと思われた時には、各部署の委員から発信してもらい、情報交換にて対策方法の検討や褥瘡有病者は、全身的に考慮して多職種と共有し早期に治るように努めています。

院内の褥瘡発生予防とスキンケア（健全な皮膚の状態を保持）やポジショニング（除圧や無理のない体位変換）や褥瘡治療に関する研修会を年2回開催しております。

ここで褥瘡回診チームの紹介をします。

メンバーは、中村整形外科医長（専任医師）、専任看護師8名、リハビリテーションスタッフ、管理栄養士で構成しており、毎週1回金曜日に回診しております。

回診の対象者は、各部署から回診要望患者様や褥瘡発生患者様や褥瘡発生のリスクが高い患者様です。回診時は、褥瘡回診チームメンバーが対象患者のベットサイドに訪問して、患者様の状態に合わせ、マットやベット周囲の状況等を観察します。そこで、各部署のスタッフと共に情報交換を行い、スキンケアの方法やポジショニング・栄養状態等の検討を行い患者様にとって最良の環境提供できるように多職種で支援を行っています。



朝日リハビリテーション専門学校
夜間部 3年
稲岡 究

今回、こちらの病院で評価実習をさせて頂いて、TKAやTHAの症例を数多く拝見させて頂きまして、大変貴重な経験になりました。解らない事も先生方に丁寧に教えて頂き、勉強になりました。長期実習でも今回の経験を活かしていければと考えております。本当にありがとうございました。



松江総合医療専門学校
理学療法士科2年
下村 尚之

今回の実習では実際の臨床現場を経験でき、とても勉強になりました。先生方によって患者さんへの接し方、アプローチの仕方が違うことや、患者さんによっても疾患ごとに気をつけなくてはならない点が違うことも気づくことができました。

3週間という短い間でしたがありがとうございました。



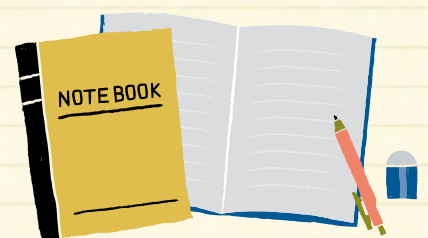
県立広島大学
3年
千崎 大輔

今回の実習の中で、一人一人個性を持つ患者様や、その方々に合わせ様々なアプローチを行う先生方から、人との関わり方の重要性を教えてくださいました。知識面もさることながら多くのことを学ばせていただいております。大変貴重な時間を過ごさせていただき誠にありがとうございます。



YMCA 米子医療福祉専門学校
理学療法士科3年
八木 要

今回、8週間の臨床実習を経験させていただき、たくさんの患者さんに触れ、実際にリハビリを体験させてもらいました。患者さんへの接し方、触れ方など、学ぶことが多く、貴重な経験になりました。ご協力いただきました患者さんをはじめ、ご指導いただきました先生方の皆様に深く感謝いたします。



ミニコンサートを開催しました

地域連携室 事務主任
滝上 潤



さる2月4日、松徳学院（松江市上乃木）合唱部の皆さんに当院でミニコンサートを開催していただきました。松徳学院合唱部の皆さんは、地域への奉仕や交流を目的とし今回のような活動をされているそうで、今回は、顧問の先生と指導の先生、生徒の方は高等部から4名と中等部から2名の計8名でおみえになりました。

コンサートは当院1階ホールで行い、当日はたくさんの患者様がお集まりになりました。入院中は、ご自宅にいた時とは異なり日々の生活が単調になりがちです。そんな中、今回のコンサートは、入院されている方の気持ちを元気にしてくれた活動だと思います。

コンサートは震災の復興ソング「花は咲く」を患者様と合唱して終了、会場からはたくさんの拍手をいただきました。病棟に帰る患者様が「良かったね、上手だったね。」と看護師さんに笑顔で話しかけられているのを見て、自分も笑顔になりました。松徳学院合唱部の皆さん、素敵なコンサートを本当に有難うございました。



しまね医療情報ネットワーク「まめネット」 始めました

医療情報室 システム管理主任
渡部 太樹



島根県が構築し運用中の「しまね医療情報ネットワーク」（愛称「まめネット」）が提供する連携カルテサービスに、情報提供病院として平成28年2月から当院も参加しました。まめネットは、参加医療機関の診療情報が相互に参照可能となることから、医療の質が向上するのではと期待されています。

各医療機関が診療情報を参照するには、患者さまの同意が必要となります。同意の手続きは患者相談窓口で行っておりますので、まずはお気軽にお声をかけてください。

まめネットの詳細については以下にてお問い合わせできます。

◎NPO法人しまね医療情報ネットワーク協会

●電話：0853-22-8058 ●ホームページアドレス：<http://www.shimane-inet.jp/>

連携カルテサービス

複数の医療機関で診療情報を共有する仕組みです。



あ と が き

寒さも和らぎ、本格的な春がやってきましたね。例年、鳥根県の開花日は3月28日だそうです。玉湯川堤には両岸約2kmにわたって約400本のソメイヨシノが植わっています。夜には夜桜を楽しんでおられる観光客や地域の方々を多く見かける時期になってきました。春は出会いと別れの季節で、昨年度をもって多く職員が退職されました。長きにわたって病院にご尽力頂き心から感謝申し上げます。また新たな職員が加わりフレッシュした雰囲気も漂っており、今後の活躍に期待しています。

ホームページから
たまつくりNOWがダウンロードできます。
<http://tamatsukuri.jcho.go.jp/>

■編集・発行責任者 院長/池田 登
■広報/小谷博信



JCHO玉造病院
〒699-0293 鳥根県松江市玉湯町湯町1-2
TEL.0852-62-1560

患者様の権利

あなたは、人種・国籍・性別・年齢・宗教、その他の個人的な背景に拘らず、差別なしに適切な医療を受ける権利を持ちます。
あなたは、担当の医師や病院を自由に選択できる権利を持ち、またどの治療段階においても、他の医師の意見を求める権利を持ちます。
あなたは、すべての医療上の記録を知る権利を持ちます。また、医師から症状について十分な説明を受ける権利を持ち、自分自身に関わる治療方針を自由に決定できる権利を持ちます。
あなたのプライバシーと個人情報情報は完全に保護いたします。